

Bringing Dreams to Life with Light

サステナビリティレポート 2013

Year ended March 31, 2013



# ウシオは、光関連事業において、世界NO.1のブランド顧客ニーズを満たす最適なソリューションを常に提案で



## 編集方針

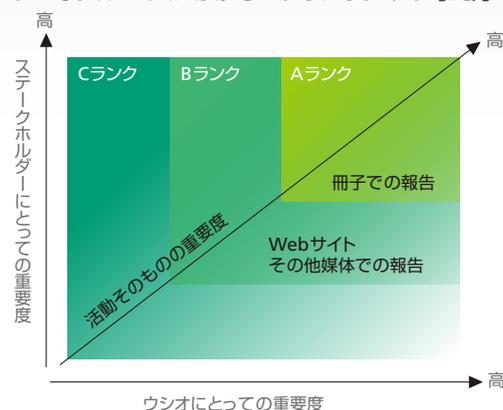
「サステナビリティレポート2013」の作成にあたっては、経営とCSRの課題の関連性をより高めた報告とるように心がけました。アニュアルレポートなど企業の活動をお伝えるさまざまな媒体との連携を意識し、編集を行なっています。

### ① マテリアリティ\*の考え方

さまざまなCSR取り組み課題の中から、ステークホルダーとの対話・意見交換を通じ、企業が直面している社会的課題の抽出とウシオの取り組みの重要度を検討しました。中でも重要度が高いと判断したものを冊子で報告し、掲載しきれなかった取り組みについてはWebサイトで紹介しています。

\*マテリアリティ: 企業と社会の課題を比較して、取り組みの優先度をつけたもの。

ウシオグループにおけるマテリアリティの考え方



今日社会は、地球規模での人口増加や環境問題、エネルギー問題などをはじめとする多くの課題を抱えています。私たちはこれらの課題を解決する答えのひとつが「光」にあると考えています。ウシオは、長きにわたり培ってきたさまざまな光技術を応用・展開していくことでソリューションを提供し、皆さまとともに持続的に成長していく道を拓いていきたいと考えています。

## 目次

C2	企業理念
01	編集方針
02	トップメッセージ
04	特集 光で、みつける。 Part 1 POCTという考え方 Part 2 光だからできること
08	ウシオのCSR
12	ガバナンス コーポレート・ガバナンス/ コンプライアンス
14	人 社員とともに
16	品質 お客さま・ お取引先さまとのかかわり
19	環境 環境への取り組み
22	社会 社会とのかかわり
24	事業概況
25	第三者意見 第三者意見を受けて

# と技術力を誇り、 きる【光創造企業】を目指します。



USHIO GROUP  
企業理念

①  
会社の繁栄と社員一人ひとりの人生の充実を  
一致させること。

②  
国際市場において  
十分競争力のある製品・サービスを 提供すること。

③  
優れた製品、新しい研究開発を通じ  
進んで 社会に貢献すること。

④  
オープンで自由な企業活動を通じ 競争力を高め  
安定利潤を確保すると共に 企業の社会的責任を果たすこと。

## ② アニュアルレポート

ウシオグループの詳しい事業報告については、「アニュアルレポート2013」またはウシオグループのWebサイトをご覧ください。



## Webサイトの活用について

より網羅的で詳細な報告のために、ホームページを活用しています。下記マークのついた項目に関してはウシオのホームページもご覧ください。

**Web** <http://www.ushio.co.jp/jp/csr/>

## 報告対象範囲

期間：基本的に2012年4月1日～2013年3月31日までの活動内容についてご報告していますが、それ以前より活動している内容や、一部2014年3月期の取り組みも含めています。

組織：ウシオ電機全事業所および国内外のグループ会社

## ウシオグループの活動を象徴する3色の葉

表紙に採用している「3色の葉」。これは「光の三原色」と環境の象徴である「若葉」をモチーフに、サステナブル経営の3つの要素、「経済性」(レッド)、「社会性」(ブルー)、「環境」(グリーン)をデザインしたものです。3色それぞれの葉が、毎日の地道な活動によってすくすく成長し、大きな幹を創りだすことを目指しています。





ウシオは、すべてのステークホルダーの皆様とともに持続的に成長するため、ウシオグループの目指す姿として「光関連事業において、世界No.1のブランドと技術力を誇り、顧客ニーズを満たす最適なソリューションを常に提案できる【光創造企業】」を掲げています。

## 当期の業績と今後の見通し

はじめに、当社の当期業績からご報告します。売上高は前期比4.4%減の1,434億円、営業利益は29.1%減の75億円、経常利益は19.6%減の105億円、当期純利益は18.2%減の71億円となりました。当社の主要市場であるエレクトロニクス業界においては、顧客企業における製造ラインの稼働率低下と新規の設備投資抑制が長引いたため光学装置の販売が振るわなかったこと、またデジタルシネマプロジェクト(DCP)の販売減少があったことなどにより、減収減益となりました。

2014年3月期は、エレクトロニクス分野では、スマートフォンやタブレット端末が引き続き好調に推移し、設備投資や設備稼働率の回復が期待されます。映像・画像分野では、一般映像分野の伸長が期待できるほか、DCPの普及に伴いランプ需要も堅調に推移することが見込まれています。これにより、2014年3月期の売上高は11.5%増の1,600億円、営業利益は64.9%増の125億円と増収増益を計画しています。

## 収益の推移

	(百万円)				
	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
売上高	120,846	119,079	145,125	150,087	143,461
営業利益	8,963	7,262	14,034	10,696	7,582
当期純利益	3,481	7,071	9,577	8,748	7,155
自己資本利益率(ROE)(%)	2.3	4.7	6.2	5.6	4.3

## 中期ビジョンとメディカル、サイエンス事業

ウシオでは毎年、ローリングプランとして3年間の中期ビジョンを策定しており、このほど発表した中期ビジョンにおいては、各セグメントのビジョンと定量目標値も明確にしました。2016年3月期にグループ全体では、1,900億円の売上高と190億円の営業利益の目標を掲げ、達成に向けて鋭意努力しているところです。

また、現在当社では、今後長期にわたりウシオグループを支える柱に育てるべく、メディカルおよびライフサイエンス分野に注力しています。エレクトロニクスや画像・映像の分野に比べるとまだ事業規模は小さいため、中期ビジョンにおける数値目標などは設定していませんが、今回の中期ビジョンの最終年となる2016年3月期ごろには当社の成長ドライバーとしてなんらかの成果をご報告したいと考えています。すでに、昨年の本誌でお知らせしたエキシマライト光線治療器「セラビーム®UV308」のほか、当期は血液分析装置「ポイントリーダー®」なども市場に投入しています。これらの装置は、大変大きな潜在的市場を有すると同時に、貧困やその他の要因で治療や検査が困難な多くの人々と医療関係者に光を投げかけるものと考えています。

## CSR中期計画の進捗

当期は、2009年に制定したCSR中期計画の第2フェーズの2年目にあたります。第1フェーズでは、ISO26000、国連グローバルコンパクトなどのガイドラインを活用しながらウシオのCSRの取

組みはどうあるべきかの検討を重ね、その結果、2012年に5つの柱からなる「CSR行動計画」を策定しました。これは、ウシオのCSRの取り組みの基盤となるものです。

第2フェーズの現在は、目標とロードマップに従って「CSR行動計画」を全社の事業計画に反映させる作業を進めており、CSR委員会として私が陣頭指揮を執り、各部署の行動計画の詳細や具体的な数値目標の設定を徹底しています。すでに各部署からは人材育成や顧客満足、ダイバーシティ、また環境対応製品など多くの施策や計画が上がっています。これによって私どもは、日々の事業活動自体がウシオのCSRの取り組みを推進してゆき、ひいてはウシオグループの目指す姿の追求に繋がる仕組みづくりを整備していきたいと考えています。

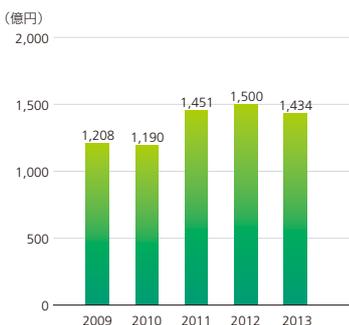
2014年3月、ウシオは創業50周年を迎えます。これからもウシオグループは、光の多様な力によるソリューションを地球社会に提供する真のグローバルカンパニーとして、皆様のご期待に応えるべく一層の努力を続けてまいります。

2013年9月

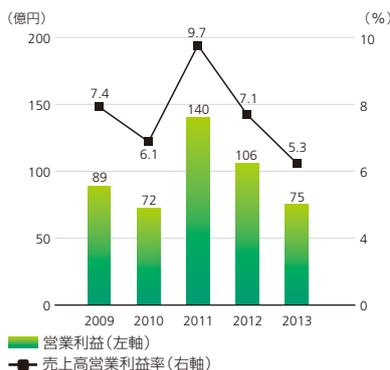
代表取締役社長

菅田史朗

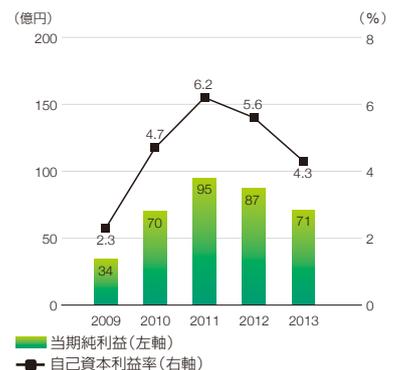
売上高



営業利益／売上高営業利益率



当期純利益／自己資本利益率 (ROE)



# 特集 光で、みつける。



画像撮影提供：槇野 博史

## Part1：POCTという考え方

皆さんは「POCT」をご存知でしょうか？ Point of care testing（ポイント・オブ・ケア・テストイング）の略で、日本語では「臨床現場即時検査」と呼ばれています。つまり、患者がいるその場で、迅速に行なう検査のこと。何だ、普通の検査じゃないかと思われる方もいるかも知れませんが、実は奥の深い話なのです。

### キーワードは「その場」で「すぐに」

「それでは明日、検査結果を聞きに来てください……。体調が悪い中、せっかく病院に行っても原因が分からずガッカリすることがありますよね。採血やサンプル採取をしても、その場ですぐに結果が出ないものはPOCTとはいえません。POCTとは「被検者の傍らで医療従事者が行なう検査であり、検査時間の短縮および被検者が検査を身近に感ずるといった利点を活かし、迅速かつ適切な診療・看護・疾患の予防、健康増進等に寄与し、ひいては医療の質向上によって、被験者のQOL（Quality of life）に資する検査\*1）のこと。

つまり、再来院や待合室で長時間待つ必要のない、患者に優しい検査のことです。身近な例では、病院でのインフルエンザ検査や自宅での妊娠検査もPOCTに含まれます。

### 「定性」か「定量」か、それが問題だ

ただ、インフルエンザも妊娠も、検査結果は「Yes／No」の「定性検査」であり、結果は＋、陽性陰性で表されます。この定性検査で対応できる項目については、すでに多くの試薬や検査技術が普及しており、一般的な病院でもPOCTが可能になっています。

しかし、よりQOLを高め、予防医療を実現していくためには、ある物質の濃度や量を正確に測定し、数値で表す高精度な「定量検査」によるPOCTが必要であり、各医療機器メーカーはそのための検査機器や試薬の開発にしのぎを削っています。



### POCTで「その場」で「すぐ」に「治療」へ

たとえば国内最大の感染症といわれているB型・C型肝炎。特にC型肝炎は、治療をせず放置すると高い確率で肝硬変を経て肝ガンへと進行する恐ろしい病気です。この治療に近年「瀉血療法<sup>※2</sup>」が注目を集めており、その治療方針を決定するための指標として「血清フェリチン<sup>※3</sup>」の量を測定する定量検査が必要となります。

血清フェリチンは一般的な健康診断の血液検査項目には含まれていないことが多いため、定量測定が可能な高額かつ大型の自動分析装置がある大きな病院に行く必要があり、結果として有効な治療法が満足に普及しない遠因となっています。

つまり、限られた病院でしか検査や治療を受けられないため、高齢者や自営業、また子育て中の主婦など、治療が必要と分かっているにもかかわらず受けられないという事態になってしまいかねないのです。

また、この血清フェリチンは悪性腫瘍などの腫瘍マーカーとしても利用され、肝ガンをはじめとして膵ガン、肺ガン、子宮ガンなどの診断にも利用されています。もし、近所の病院で、その場ですぐに検査結果が分かる機器や試薬があれば、より多くの人が検査を受けられるようになり、ガンの早期発見ができる場合もあります。

このように、これまで潜在化していた病気を早期に発見し、治療に結びつけることが、POCTには期待されています。

### 発展途上国でのPOCT

POCTの有効性は、先進国におけるQOL向上だけではありません。POCTであるということは、手軽で、誰にでも扱え、結果も安定しており、しかも安価である、ということです。発展途上国では定量検査が可能な高価な検査機器はまだ少なく、一般の人々が気軽に利用することはできません。そのため、衛生状態や医療水準の低さに起因するC型肝炎や、風土病であるサラセミアなど、その国や地域の事情にあった検査項目に特化し、簡便で安価な検査こそが求められているのです。

こうした課題に対し、日本から東南アジアをはじめとした発展途上諸国への医療支援のODAとして、現在POCT向け検査装置の導入が検討されています。それらが広く普及することで、早期発見による治療や予防はもちろん、医療水準の向上や経済的負担の軽減に貢献できる可能性があり、ウシオも独自の光技術と画像処理技術で貢献しています。

※1 POCTガイドライン(日本臨床検査自動化学会)より引用

※2 瀉血とは体内から血液を抜くこと。一般的に1~2週間おきに200~400mlの瀉血を行ない、フェリチン値を低下させる療法のことを瀉血療法という。これにより、鉄分過多を要因とする肝炎の進行を抑えることができる。

※3 鉄を貯蔵しているタンパク質のこと。血清フェリチンは体内の貯蔵鉄の量を反映して増減し、これを定量分析することで、鉄欠乏性貧血や鉄過剰症、白血病、C型肝炎における瀉血治療前などの検査・診断や病態把握に役立つが、一般的に定量分析が求められている。



## Part2：光だからできること

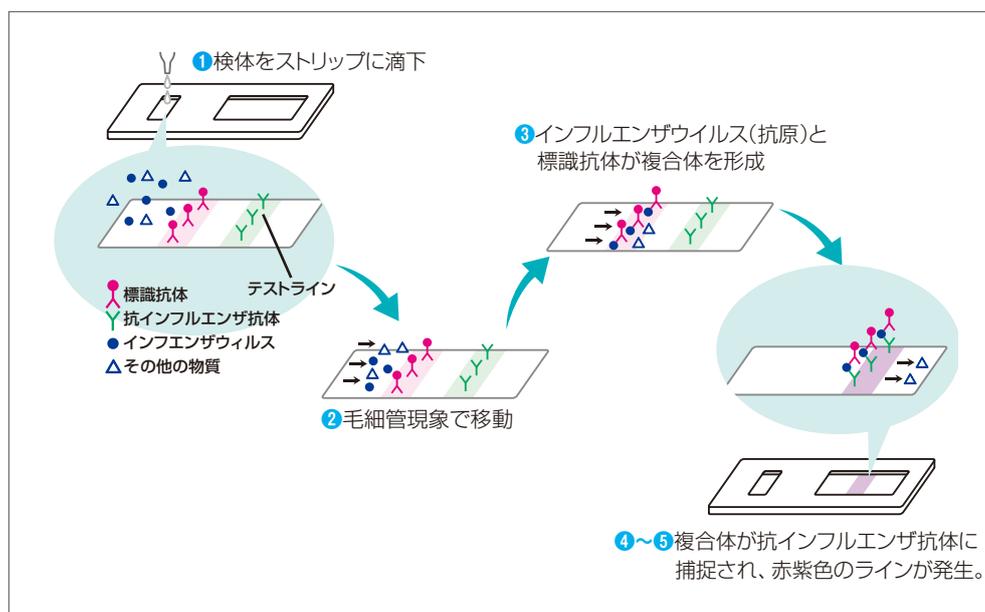
2013年4月、ウシオは日本で初めて\*、イムノクロマト法による血清フェリチンの定量分析が可能な血液分析装置「ポイントリーダー®」と専用試薬の販売を開始しました。そこには、ウシオが長年にわたって培ってきた光技術と画像分析技術が活かされています。

※2013年3月31日現在、自社調べ

### まず、イムノクロマト法とは？

インフルエンザや妊娠検査でおなじみの簡易検査（迅速診断）キットなどでよく採用されている検査方法です。“イムノ”は「免疫の」、クロマトグラフィは「物質を分離させる」という意味です。たとえばインフルエンザでは、患者の鼻腔から採取した検体を希釈し、それをストリップと呼ばれるものに数滴滴下します（①）。検体は毛細管現象によって移動（②）し、検体中にインフルエンザウイルス（抗原）が存在すると、それに反応する標識抗体と複合体を形成します（③）。その複合体がさらに移動し、テストラインにある抗インフルエンザウイルス抗体に捕捉されます（④）。複合体は一つひとつが目視できないレベルで発色しており、その捕捉された数が多くなると赤紫色のラインが目視レベルにまで色がつくため、ウイルスの有無が判定できるのです（⑤）。

### イムノクロマト法の測定イメージ



### 日本初、イムノクロマト法による血清フェリチンの定量測定

従来、このイムノクロマト法は取り扱いが簡易な反面、血中に何%存在するか、という定量精度が低いため、検査項目は、主に感染の有無が分かればよいインフルエンザをはじめ、妊娠やアレルギー検査などの定性分析に限られていました。

そのイムノクロマト法を用い、日本で初めて血清フェリチンの定量測定を実現したのが、ウシオの「ポイントリーダー®」とその専用試薬である「ポイントストリップ®」です。検体中の血清フェリチン濃度によって現れる微妙な色の濃淡を独自の光学技術とアルゴリズムで解析することで、イムノクロマト法での分析能力を飛躍的に向上させることに成功。性能において大型の自動分析装置と良好な相関性を示しており、これまでは不可能だった臨床現場における血清フェリチンの定量分析を可能にしたことで、検査精度のバラツキをなくすとともに、患者はもちろん、医療従事者の負担軽減を実現しました。



ポイントリーダー®およびポイントストリップ®外観



### ウシオ独自の測定法も

このような現場(=オンサイト)での正確な検査に対するニーズは、たとえば食品中のカビ毒や有害添加物の検査、感染症におけるウイルス・細菌の検査、血中に含まれる各種バイオマーカーの検査など、多岐にわたっています。

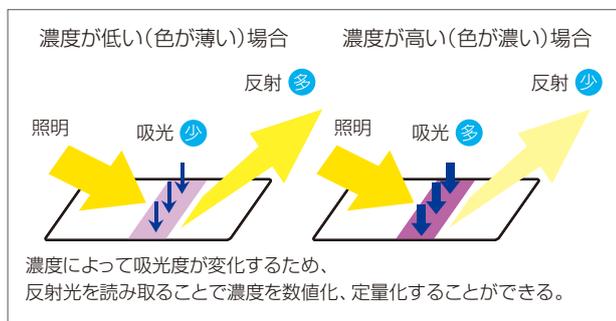
これに対しウシオは、全く新しい独自の測定法「Q-body」を採用したオンサイト微量分析キットの開発を進めており、現在、麻薬密輸の取締りにおける輸入貨物に対する検査ツールとすべく、税関の分析機関で評価中です。

これからもウシオは、さまざまな現場との綿密な連携のもと、皆さまの安心や安全、環境保全などに光の技術で貢献してまいります。

### 光学測定イメージ



税関の分析機関で評価中のウシオのオンサイト微量分析キット



## column

日本のほぼ2倍の国土に5千万人あまりの人々が暮らすミャンマーは、近年急速に民主化が進み、世界の注目を集めています。しかし、2012年の国民一人あたりのGDPは日本のほぼ60分の1。さまざまな社会インフラ整備の要望があるなか、日本人による息の長い医療支援が行われています。

「ミャンマーには、先天的にヘモグロビンの寿命が短いサラセミアという風土病があります。」

岡山大学名誉教授の岡田茂先生は、JICA(独立行政法人 国際協力機構)の仕事に携わっていた1988年当時のミャンマーについて語ってくれました。

「サラセミア患者は、重度の貧血のために輸血が欠かせないのですが、輸血によって貯蔵鉄過剰という様々な症状を伴う疾患に陥っていました。また当時は、輸血液のスクリーニングが行なわれておらず、サラセミア患者の90%がC型肝炎保因者でした。これは医者として見過ごすことのできないことでした。」

加えて肝炎は、悪化すると治療不可能な肝硬変から肝ガンへと移行するため、肝炎のうちに治療するということが極めて重要になってきます。ところが、貯蔵鉄過剰は肝炎を一層悪化させてしまう要因でもありました。」

2000年、岡田先生は周囲の研究者やJICAなどを巻き込んでミャンマー保健省に働きかけ、輸血液を安全なものにする取り組みを開始しました。この活動は3年ほどで奏功し、現在は安全な血液が供給されるようになっています。

しかし、ミャンマーからサラセミアと貯蔵鉄過剰、そして肝炎がなくなったわけではなく、治療のためには、患者の貯蔵鉄量の推移を把握することが必要です。かねてから、臨床現場で簡便に検査できる機器の開発が必要だと考えていた岡田先生に、ウシオがお会いしたのは3年前のこと。そしてこのほど、共同開発の成果である最新の製品\*をミャンマーに届けることができました。

「ほんの微量な濃度まで計れることが重要なのです。今回の検査機は、きっと喜ばれますよ。」長年ミャンマーの医療に尽力してこられた岡田先生の笑顔がこぼれます。

\*ポイントリーダーおよびポイントストリップ



認定NPO法人日本・ミャンマー医療人育成支援協会 理事長 岡山大学名誉教授

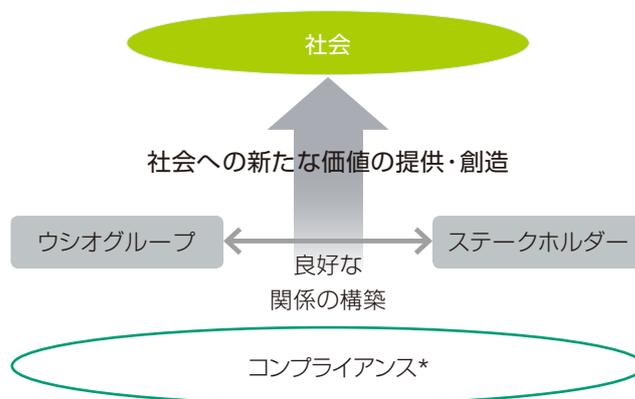
岡田 茂先生

# ウシオのCSR



## ウシオの目指すCSR\*

「コンプライアンス」や「社会貢献」「環境保全活動」などは、企業市民として当然取り組むべき課題であり、全ての活動の土台であるとウシオグループでは考えています。その上で、さまざまなステークホルダー\*の皆さまと良好な関係を構築し、新たな価値の創造と提供を行なうことにより、進んで社会に貢献する企業でありたいと考え、取り組みを進めています。



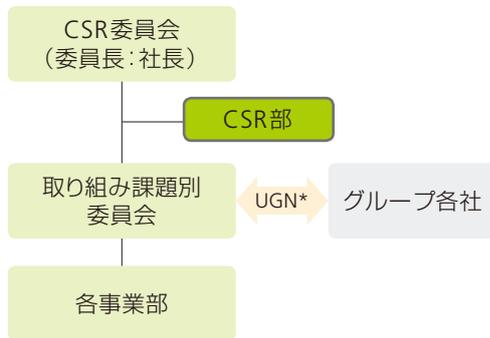
## 用語集

**CSR (Corporate Social Responsibility 企業の社会的責任)** 企業が世の中を構成する一員として果たすべき責任。  
**ステークホルダー** さまざまな組織が意思決定を行ない活動をするにあたって、そこに関係してくる人たち。一般的には「企業の利害関係者」として説明される。  
**コンプライアンス** 直訳すると「法令遵守」となる。かつては法令を守ることという意味に取られていたが、最近ではこれに加え「社会のルールや良識を守り社会に貢献すること」もコンプライアンスの範囲として捉えられている。

## CSR推進体制

ウシオ電機では、社長を委員長とした「CSR委員会」を設置し、CSRへの取り組みにかかわる全社的な方針などを決定しています。「CSR委員会」で決められた方針を具現化するために、必要に応じて「CSR委員会」の下部組織として取り組み課題別の委員会を設置し、具体的な取り組みについて議論しています。2012年からはCSR委員会の開催時期を変更し、よりタイムリーなCSR活動の推進に向けて自発的、継続的に体制を充実させています。

CSR推進体制図



## 国連グローバル・コンパクト\*10原則の支持

2010年10月、国連が提唱する「人権・労働基準・環境・腐敗防止」についての普遍的原則である「国連グローバル・コンパクト10原則」への支持を表明しました。また、国連グローバル・コンパクトのローカルネットワークである、「国連グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワーク」にも加盟し、多くの加盟企業と共に各CSR要素の推進のため、必要な具体的施策の情報共有、及び各企業での充実を図る分科会活動に積極的な参加を継続しています。



## 「国連グローバル・コンパクト10原則」とウシオの取り組み

国連グローバル・コンパクト10原則		ウシオの関連取り組み報告ページ
人権	原則 1 企業は、国際的に宣言されている人権の擁護を支持、尊重し、	「私たちの行動指針10」第3項では、すべての人々の基本的人権を尊重し、不当な差別を行わないことを明記するなど、取り組みを進めています。 ⇒P14、P15
	原則 2 自らが人権侵害に加担しないよう確保すべきである。	
労働基準	原則 3 企業は、組合結成の自由と団体交渉の権利の実効的な承認を支持し、	国際労働機関* (ILO)による「労働における基本的原則及び権利」の宣言を尊重し、「私たちの行動指針10」第3項では、良好な労使関係や、職場における差別の撤廃、明るく安全快適な職場環境を作ることを行っています。 ⇒P14、P15
	原則 4 あらゆる形態の強制労働の撤廃を支持し、	
	原則 5 児童労働の実効的な廃止を支持し、	
	原則 6 雇用と職業における差別の撤廃を支持すべきである。	
環境	原則 7 企業は、環境上の課題に対する予防原則的アプローチを支持し、	「私たちの行動指針10」第8項では環境保全に積極的に取り組むことを明記しています。また、「2020年環境ビジョン」を定め、ビジョンの具現化に向けて「第三期環境行動計画」を策定し取り組みを進めています。 ⇒P19、P20、P21
	原則 8 環境に関するより大きな責任を率先して引き受け、	
	原則 9 環境に優しい技術の開発と普及を奨励すべきである。	
腐敗防止	原則10 企業は、強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである。	「私たちの行動指針10」第6項にて腐敗防止を含む公正な企業活動の推進をうたっています。また「コンプライアンス委員会」の設置や「ウシオヘルプライン(内部通報制度)」を設置するなどして取り組んでいます。 ⇒P13

**UGN** Ushio Green Networkのこと。ウシオグループ各拠点における環境への取り組みや情報共有を目的とした組織。

**国連グローバル・コンパクト** 1999年、当時の国連事務総長であったコフィー・アナン氏が企業に対して提唱したイニシアチブ。人権・労働基準・環境・腐敗防止に関する10原則の取り組みを遵守し実践するよう呼びかけている。

**国際労働機関** 1919年にベルサイユ条約によって誕生。全世界において、労働条件を改善し社会正義を実現することを目的としている国際組織。

## CSR中期計画

2009年ウシオはCSR部を設置し、2016年までにウシオの経営戦略とCSR課題を融合させることをめざしたCSR中期計画を策定しました。このCSR中期計画は7年間で3つのフェーズからなり、第1フェーズ(2010～2012)では「CSRの取り組みの基盤づくり」に注力し当初目指した目標を達成することができました。現在は第2フェーズ(2013～2014)にあり、「CSRの取り組み課題の深掘り」へと取り組みを進めています。

### 第1フェーズの振り返り

第1フェーズでは、ウシオのCSRのあるべき姿を模索しつつ情報収集と推進基盤の確立に努めました。マネジメント層への意識調査や社員へのアンケート、またNGOや有識者との対話を通じて、ウシオが取り組むべき課題についての洗い出しを行ないました。その過程において、社長を委員長とするCSR委員会の設置とCSR推進体制の確立、国連グローバル・コンパクト10原則への支持表明、また「CSR行動計画」を公表するなど、ウシオがCSRの取り組みを実行していくうえで不可欠な活動基盤を構築しました。

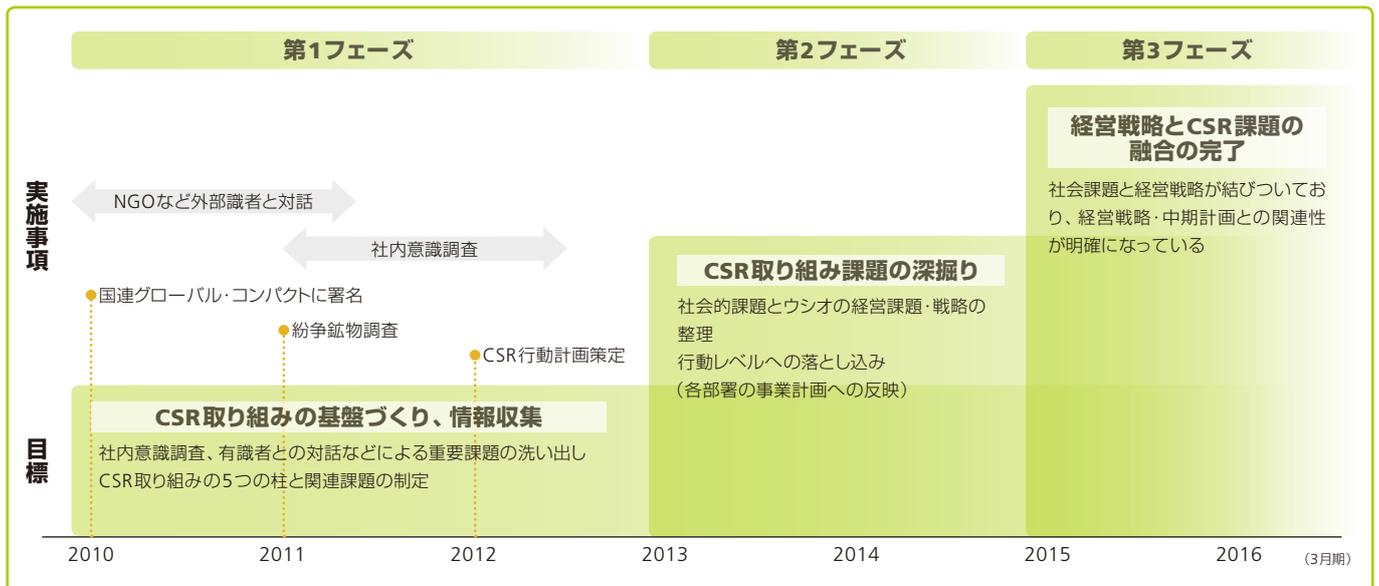
### 第2フェーズ

現在進行している第2フェーズにおいては、第1フェーズで構築した活動基盤を有効に機能させることで、実際に各事業部やグループ会社の事業とCSR的要素とを一体化させるPDCAサイクルの端緒を拓きました。具体的には、CSR委員会の委員長である社長の指揮により、2013年3月期は事業の中でのCSR推進を強化していくため、CSR行動計画で原則を示し、各事業部・部署の状況に合わせた形で事業計画への落とし込みを図りました。すでに各部署からは人材育成や顧客満足、ダイバーシティ、また環境対応製品など多くの施策や計画が上がっており、今後はこの行動計画のグループ会社への浸透を次の課題として取り組んでいきます。

### CSR行動計画

CSR行動計画の策定に際しては、CSR委員会をはじめとする関連機関でISO26000\*の7つの中核主題や複数のガイダンスおよびガイドラインを考慮しながら、当社事業活動におけるCSR的要素をさまざまな角度から検討しました。その結果、ウシオグループの課題を「ガバナンス」「人」「品質」「社会」「環境」に分類して5つの柱とし、それぞれの項目をさらにブレイクダウンした取り組み方針を設けました。現在このCSR行動計画が、ウシオのCSRのフレームワークを示すと同時に、各事業部やグループ会社が事業計画を作成する場合の考え方の基盤となっています。

## CSR中期計画 目標とロードマップ



### 用語集

**ISO26000** 国際的なSR(組織の社会的責任)の取り組みのガイドラインとして2011年10月に国際標準化機構より発行された。政府や産業界、労働者、消費者、NGOなどの代表者が2000年代前半より議論を行ないながら策定作業を行なった。従来のISOのように認証を必要とする規格ではないことも特徴のひとつ。

## CSR行動計画 5つの柱



### ガバナンス

グローバルな企業活動において、国際基準まで含めたコンプライアンスの確立や、CSRに関する情報公開・ステークホルダーコミュニケーションに関する取り組みとガバナンス体制の強化・発展

#### 取り組み課題

- 社内浸透
- 内部統制\*
- グローバルな取り組み
- BCP\* (事業継続計画)の策定
- 法令遵守・倫理
- 情報セキュリティの強化
- 公正・公平な事業活動
- 財産権の保護



#### 2014年3月期の行動方針

- リスクマネジメントの推進
- 法令遵守の取り組みの推進
- 情報セキュリティの強化
- 知的財産権の保護や戦略的活用
- BCP\* (事業継続計画)の策定

### 人

人材の登用と活用において、職場環境、人権、価値観の多様性に配慮した取り組み

#### 取り組み課題

- 人権
- ダイバーシティの推進
- ワークライフバランスの推進
- 安全衛生の取り組み
- 人材

#### 2014年3月期の行動方針

- 3年間先を見据えた人材計画の策定 (将来の施策にマッチした、人材・人員構成・ダイバーシティの推進)
- ワークライフバランスの推進
- 総労働時間の削減
- 安全衛生の取り組みの推進

### 品質

市場のルールや規範遵守を基本に、顧客・株主・取引先等のソーシャルニーズ\*に対応する取り組み

#### 取り組み課題

- CSR調達
- 品質
- ソーシャルニーズ\*の創造



#### 2014年3月期の行動方針

- 売上計画、利益計画の達成に加え、顧客満足度向上や品質向上のための取り組みの推進
- サプライチェーンの強化 (CSR調達・グリーン調達の推進)
- 本業 (製品やサービス) を通じた社会的課題の解決へのアプローチ、アジアなどの新興諸国におけるビジネス推進計画の立案
- 品質保証体制の整備

### 環境

企業の環境保全の取り組み。「環境」と「経済」の両立をもとに、生態系に影響をおよぼす地球規模の環境問題を含む

#### 取り組み課題

- 環境配慮型製品の売り上げ拡大
- 地球温暖化対策
- 化学物質管理
- 資源の節約・生物多様性保全



#### 2014年3月期の行動方針

- 第四期環境行動計画の推進
- エネルギーコスト、資源コストの削減を通じた環境への貢献
- 環境関連法規制への対応と、法規制動向を先取りした製品開発・市場創造

### 社会

地域社会から国際社会まで広くかかわり、教育・文化・福利・開発など協調、協力の取り組み

#### 取り組み課題

- 社会貢献活動



#### 2014年3月期の行動方針

- 社会貢献活動の推進 (地域社会とのコミュニケーションの実施・本業を通じた世の中への貢献の検討)

**内部統制** 企業などの組織において、業務を適切に進めるためのルールを作り、ルール通りに業務を進めるプロセス。アメリカで発生した巨額粉飾・不正監査事件を契機に、企業のコンプライアンスが問題となり、世界的に重視されるようになった。

**BCP** 事業継続計画 (Business Continuity Plan) のこと。自然災害などの不測の事態において、事業の継続を図るための方針や計画。想定外の事態を想定内にするための取り組みではなく、想定外の事態に対応するための仕組みづくりが重要。

**ソーシャルニーズ** 世の中にあるさまざまなニーズの中でも、特に環境や貧困、人権、福祉、健康などといった公共分野や社会的課題にかかわるニーズ。

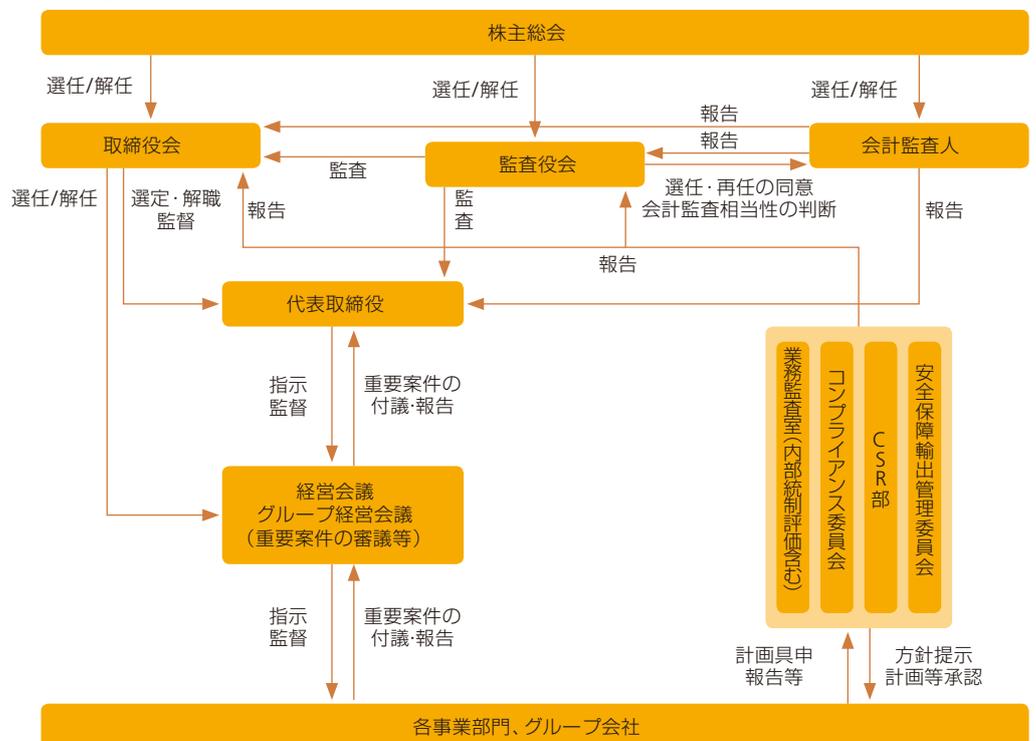
## コーポレート・ガバナンス／コンプライアンス

ウシオグループの基本方針は、企業経営における透明性と効率性を確保すること、および、全てのステークホルダーの皆さまの期待に応じて企業価値を増大させていくことにあります。また、そのための法令・社会的規範・企業倫理の遵守およびJ-SOXを含めた内部統制の体制確立・維持を経営の最重要課題のひとつとして位置づけ、これらを推進しています。

### コーポレート・ガバナンス

ウシオ電機は監査役会制度を採用しています。経営管理組織については、経営方針等の重要課題に関する意思決定および業務執行の監督機関として「取締役会」、業務執行機関として「代表取締役」、監査機関として「監査役会」を設置しています。さらに、ウシオ電機およびグループ全体の経営戦略や中長期の経営方針等を審議するため「経営会議」「グループ経営会議」を設け、取締役会の意思決定を支援するとともに、代表取締役の業務執行の強化や迅速性を高めるため「事業部制度」や「執行役員制度」を導入しています。

ウシオ電機内部統制図



### 用語集

**コーポレート・ガバナンス** 企業統治の意味で、企業の経営を監視する仕組みのこと。監視するといっても「経営者がなにか不都合なことを行っていないか」を監視するのではなく、経営者に目標を与え業績評価するなど、「経営者が株主のために企業経営を行なっているか監視する仕組み」である。

## 取締役会および社外取締役の選任

ウシオ電機の実効取締役会は、社内取締役10名と独立性の高い社外取締役1名の計11名で構成されています。事業内容に精通した社内取締役による迅速な意思決定が図られる一方、経営から独立した社外取締役を選任することにより、経営監視機能を強化し、経営の客観性を維持しています。なお、社外取締役1名は、東京証券取引所の定めに基づく独立役員（一般株主の保護を図るため、一般株主と利益相反が生じるおそれのない社外役員）として届出しています。

## 監査役監査

ウシオ電機の「監査役会」は、5名の監査役のうち3名が独立した立場の社外監査役です。それぞれの社外監査役は、財務・会計・法律など専門の監査分野を持ち、客観性および中立性を持つ監査を実施しています。「取締役会」は、「監査役会」に対して法定の事項に加え、当社グループ全体に著しい影響をおよぼすおそれのある事項、毎月の経営状況として重要な事項等を適宜報告しています。「会計監査人」は「監査役会」に年間の監査計画書を提出して具体的な監査方針を説明するとともに、四半期・期末決算における四半期レビューや会計監査の際には監査役に対してレビュー・監査結果の要旨を報告し、「監査役会」との間で定期的な意見交換を実施しています。

## 業務監査

企業不祥事の未然防止および会社法・金融商品取引法の制定に伴い、内部監査の重要性が増しています。内部監査には法令・規程等の準拠性監査、内部統制の整備・運用の評価のみならず、業務改善等に視点を置いたコンサルティング機能も求められるようになってきました。ウシオ電機では、コンプライアンス監査や安全保障輸出管理の監査をはじめとするさまざまな内部監査やグループ会社の監査を実施しており、監査の品質や監査の有効性を高めるために、監査役や関連部署とは常に連携を図っています。経営上のリスク最小化と会社が目指す方向性の観点から監査テーマ、監査項目を組織の状態に応じて選定し、組織体の目標達成に向けて価値を提供できる監査になるよう留意しています。また、監査による指摘・提言事項については、対応が完了するまで定期的にフォローを行なっています。今後も経営の合理化、業務の改善、資産の保全、経営上のリスク最小化および体質改善につながる監査・提言を行なっていきます。

## コンプライアンス

コンプライアンス違反は企業や行政組織の社会的信用を根底から揺るがし、損害賠償請求や売上急減などで多大な損失を被るリスクがあることは言うまでもありません。ウシオ電機では「コンプライアンス委員会」を設置し、潜在するリスクも含めコンプライアンス懸案事項には、できるだけ早い時点で対処することなどを全社的に推し進めています。また、外部の相談・通報窓口として「ウシオヘルプライン」があります。

## 情報セキュリティ

ウシオ電機では、事業活動上で取り扱う機会が多いお客様の個人情報、お客様からお預かりする重要な企業情報などの情報資産を、漏洩や改ざんなどの脅威から確実に守ることが最重要課題と考えています。さらには、情報は価値を生む資産、企業価値を高める源泉という認識に基づき、社員の情報セキュリティ意識の向上、リスク管理など体制整備を推進しています。これらの管理では、「ルールを決める」「ルールを守る仕組みを作る」「意識向上」の三位一体となった取り組みが必要で、本年は情勢に合わせた適切な内容に情報セキュリティ管理規定改訂を行ないました。今後は海外を含むグループ内でのルール均質化を推進します。

具体的な仕組みとして、IC入りIDカードを活用した事業所内一定のセキュリティエリアの確保やパソコンのウイルス対策、ディスク暗号化、業務システムの権限管理、対災害・対障害能力の強化といった対策を進めており、他にも電子メールの添付ファイルの自動暗号化機能や誤送信防止機能の設定、認証管理・プログラム資産管理の仕組みの強化、可搬記憶媒体のウイルス対策の強化等を実施しています。

情報漏洩を防止するためには社員一人ひとりの情報セキュリティに対する意識とスキルを向上させることが重要と考えており、eラーニングを活用した全社教育や入社時や階層別の研修を適宜実施することで、さまざまな脅威や機会に対する認識向上を図っています。

本年は更にPDCAサイクルを回す事による取組みを開始し、より確実な周知を徹底しています。

## 公正・公平な取引に向けて

ウシオグループでは、「私たちの行動指針10」の中で、取引を行なう場合には常に相手の立場と権利を尊重し、公正・公平な姿勢をもってあたり、優越的地位を利用して、不当な条件を押しつけたりしないことを約束しています。また、腐敗防止に努め、社会通念に照らして適正な取引を行なっていくことを約束しています。

## 社員とともに

ウシオグループでは、企業の社会的責任の取り組みを通じて、社員がイキイキとやり甲斐を持って働くことのできる企業づくりを目指しています。企業理念の最初の項目に「会社の繁栄と社員一人ひとりの人生の充実を一致させること」とあることにも表されている通り、この想いは創業時から変わっていません。

### 人権の尊重

ウシオグループでは国際労働機関(ILO)による「労働における基本原則及び権利」を尊重しています。また、2010年10月には国連が提唱する「人権・労働基準・環境・腐敗防止」についての普遍的原則である「国連グローバル・コンパクト10原則」への支持を表明し、10原則を遵守するべく取り組みを推進しています。そのほか、CSR調達、紛争鉱物\*調査、ダイバーシティも人権にかかわる大きなテーマとして捉えています。ダイバーシティについては、国が方針を提示していることから日本国内でも徐々に進展しており、ウシオでも国籍や性別などの違いによって雇用・昇進の機会に差別が生じないように、長期的なプランを推進しています。

### ダイバーシティ\*

#### グローバルな人材の活用

ウシオグループの所在地別売上高を見ると、海外での売上高は70%を超える規模になっています。海外でビジネスを推進していくためには、現地に溶け込んだコミュニケーションを行なうことにより、何が求められているのかを理解し、行動できる人材が必要となってきます。そのため、留学制度の制定や海外留学生の採用をはじめ海外グループ会社からの親会社への出向やグループ会社間における人材の交流を通して、グローバルな人材の育成・活用を行なっています。

#### 働く女性の支援

ウシオ電機では、先進国のビジネスが成熟化している中で新しいビジネスを生み出すには、新しい力が必要と考えています。近年では営業職・技術職における女性社員比率が2007年に比較し2倍以上に増加しており、管理職登用においても性別に捉われない人材の登用を図っています。さらに、社員一人ひとりのモチベーションを高めるため、2012年12月には社外の女性営業部長を迎え営業女性社員勉強・交流会を、また2013年1月と4月には、女性社員の声を経営に届けるため、牛尾会長と女性社員の座談会を行ないました。

#### 用語集

**紛争鉱物** 米国証券取引委員会(SEC)にて定められた金融規制改革法(ドット・フランク法)にて米国上場企業に使用の報告義務が制定された4物質(金、錫、タンタル、タングステン)を示す。採掘元によってはコンゴ国内の武装勢力の資金源になる懸念があり、現地人権問題の解決に向けて精錬所の特定など管理が求められている。

**ダイバーシティ** 多様性の意味で、人種や性別、年齢、信仰にかかわらず多様な人材が最大限の能力を発揮できるような仕組みづくりが求められている。

## ワークライフバランス\*

### 両立支援制度

ウシオ電機では、ライフスタイルや性別を問わない多様な価値観、働き方に柔軟に対応できる体制づくりのため、育児休業をはじめ、法定水準を上回る支援制度を整備しています。2009年3月には仕事と子育ての両立支援制度や母性保護、上司の対応方法など、制度を利用する社員および上司の心得を記載した「両立支援ハンドブック」を発行しました。2011年7月には、短時間勤務制度を改正し、期間の延長(子が6歳まで)および、就業時間を選択できるようにしました。また、男性の育児休業取得者の体験談をポータルサイトで公開するなど、男女問わず両立支援のための環境の整備を行なっています。その結果、2012年6月に、3期目の「次世代育成支援対策推進法」認定マーク「くるみん\*」を取得しました。

### ウシオ電機の両立支援制度(仕事と子育て)

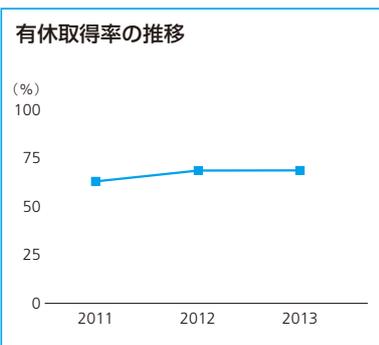
子供が生まれるまで	出産	産後	子供を育てる
<ul style="list-style-type: none"> <li>不妊治療のための休暇</li> <li>短時間勤務(妊娠)</li> <li>妊娠通院休暇</li> <li>妊娠障害休暇</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>配偶者分娩休暇</li> <li>産前産後休暇</li> <li>産前産後とも8週間</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>育児休業</li> <li>子一人につき2回、最大2年間、配偶者が就業していても取得できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>短時間勤務(育児)</li> <li>時間外の免除、制限</li> <li>深夜業の制限</li> <li>看護休暇</li> <li>育児時間</li> <li>通院休暇</li> </ul>

### 育児休業制度利用者推移

	2011	2012	2013
男性(人)	2	2	5
女性(人)	29	27	32
合計(人)	31	29	37

### 有給休暇の取得や定時退社日の制定

ウシオ電機はワークライフバランスを重視しており、家族・友人と過ごす時間や自己啓発の時間を確保し、メリハリある働き方の実現を目的とし、定時退社日の制定や計画年次有給休暇の取得を推進しています。休暇を取得しリフレッシュすることで、心身の健康を保ち、パフォーマンスの向上につながると考えています。



## 安全衛生

### 社員の安全衛生

ウシオ電機では社員が安心して働ける職場づくりを目指し、労働環境における安全衛生の取り組みにも力を入れています。健康診

断有所見者やメタボ者への保健指導、長時間労働者への産業医面談など社員の健康を守るためのさまざまな仕組みを設けています。

## 人材の育成

### 人材育成教育研修や現場に根ざした人材育成

企業理念に描かれている「会社の繁栄と社員一人ひとりの人生の充実を一致させること」の実現に向け、さまざまな教育制度を設け自立した人材の育成を目指しています。

また、各部門や職種別に必要とされるスキルの見直しを行ない、体系化し、人材の育成や評価に役立てる仕組みを拠点別に行なっています。職種を問わず、常に問題意識を持ち、過去にとらわれない発想で、独自性のある提案と行動ができる人材の育成が求められています。

### 自己啓発援助

**通信教育:** 語学、技術系基礎講座や資格取得のための講座に加え、マネジメントからパソコンスキルまで幅広くラインアップしています(2013年3月期は290講座)。修了すると奨励金が支給されるなど、社員の学習意欲に応じています。当期は延べ356講座の受講がありました。

**TOEIC検定:** 社員が自己の英語レベルを把握し、レベルアップを図ることを目的として、希望者にTOEIC試験を実施し、受検料の一部を会社が援助しています。当期は延べ75名が受検しました。

### 階層別研修

**若手社員研修:** 新卒入社5年目の社員が対象。「正す」と「励ます」OJT指導スキルの習得を目的としています。

**役職者登用前研修:** 役職者を指す中堅社員が対象。研修ではマネジメントの基本学習をはじめ、役職者に必要とされる能力要件を確認するとともに、自分を知り、自己啓発する能力について診断します。診断結果をフィードバックレポートとして、上司、受講者へ通知し、受講者の今後の能力開発に活かしています。

**新任ライン長研修:** 新任ライン長(主に課長)が対象。研修で得た気づきをもとに、組織目標を達成するために、(課やチームを)管理統率・運営する上で障害となっている課題を解決することを目的としています。

**幹部社員研修:** 事業部長研修や部室長研修では、「組織管理の課題に加え、所属事業の将来を見据えた中長期的な戦略を実現するために生じる様々な課題を解決する」、その一助となるようなプログラムに内容を見直しています。

**ワークライフバランス** 「仕事と生活の調和」の意味で、働きながら私生活も充実させられるように職場や社会環境を整えること。単に残業時間を減らすということではなく、仕事と私生活の双方の質を高めることで相乗効果が得られるような取り組みが求められている。

**くるみん** 「くるみん認定マーク」などと呼ばれ、従業員の子育て支援のための行動計画を策定・実施し、一定の基準を満たした企業が厚生労働大臣から認定を受け、そのマークを使用することができる。

## お客さま・お取引先さまとのかかわり

ウシオグループではお客さまのニーズを的確に捉え、お取引先さまと一体となって製品の開発・品質の向上を進めることで、「当たり前品質」の上を行く「魅力的品質」を備えた製品・サービス、新たな価値を提供していきます。

### 品質方針

ウシオ電機では、全社統一の品質方針を制定し、品質の向上に力を入れています。

### UPS (USHIO Production System)

ウシオ電機 播磨事業所では、2012年3月期から独自の新しい生産方式の確立を目指し、UPSと呼ばれる取り組みを開始しました。事業環境の激しい変化の中で、どのような環境にあっても高品質な製品を効率よく提供するためにはこれまでのやり方を踏襲し決められた枠の中で改善を積み重ねるのではなく、従来から培って来た改善活動(UPS、TPM、TQC)を統合し、多角的視点から改善を進めています。

#### 基本理念

ウシオは製品の品質最優先と認識し、世界のマーケットへ高品質で、安全で信頼性の高い経済的な製品とサービスをタイムリーに提供し、顧客の要求に応えます。

#### 行動指針

1. お客様第一、品質第一に徹して、最新技術で、魅力ある商品を開発して、顧客の要求と信頼に応えます。
2. 顧客のニーズを満たすため、品質マネジメントシステムを全社へ展開し、その有効性の継続的な改善に取り組み、さらなる品質の向上に努めます。
3. 顧客との情報共有化を図り、コスト改善、新製品開発、新規市場開発を行い、世界マーケットへ高品質で、安全で信頼性の高い経済的な製品をタイムリーに提供します。

2010年4月1日  
ウシオ電機株式会社  
代表取締役社長  
菅田 史朗

UPSは「社員一人ひとりの自発性や熱意をもって、創意工夫により仕事の欠陥をなくしていく」ZD(ゼロ・ディフェクト)活動を基盤とし、「製造技術グループ」、「品質システム改善グループ」、「教育・啓蒙グループ」の3本の柱から構成されています。

本年は、具体的に効果を上げるための取り組みがスタートしました。今後は、実際の効果測定などを視野に入れ、製造技術グループでは顧客満足度の向上、品質システム改善グループでは改善された仕組みの定着、教育・啓蒙グループでは持続可能な教育体系の定着に向けて活動を強化していきます。

### 用語集

**スーパーグリーン製品の評価項目** スーパーグリーン製品認定の基準は、次の3つの要件で構成されています。

- ①環境配慮型製品基準で80点以上(環境配慮型製品アセスメント基準に基づく)
- ②環境ファクター1.5以上(2001年3月期を基準年とし、従来製品との比較で計算)
- ③透明性の確保

## 製品を通じた貢献

産業用光源メーカーとしてスタートしたウシオは、時代の要求に応じた製品展開を推進しています。近年では企業の社会的責任を果たすためのテーマとして、本業を通じた社会貢献を掲げており、様々な分野における課題を光のアプリケーションによって解決する製品を積極的に投入しています。

特に当期は、製品開発段階より環境アセスメントを実施したスーパーグリーン製品の範囲を大きく広げ、製品の性能を一新する取り組みを強化しています。ウシオは、これまで培ってきた光技術を応用・展開することで、地球規模での医療、健康、環境、エネルギー、水、セキュリティ、食糧などの課題にソリューションを提供し、同時に顧客ニーズに応える付加価値の高い製品とサービスを提供していきます。

## スーパーグリーン製品の開発

ウシオは環境配慮型製品の創出に取り組み、ウシオ独自の認定基準に基づき既存製品と比べて、環境対応技術を積極的に採用した製品を、ウシオの「スーパーグリーン製品(SG製品)」として認定しています。SG製品は、「省エネ」「長期使用」「3R設計」「使用材料」「アプリケーション」などで優れた環境配慮がなされたトップランナー製品であるほか、「ウシオ環境ファクター\*」による数値基準をクリアしたもので、現在は15製品が認定されています。

本年の新たな認定製品としては、医療用の特殊ランプやLED光源、その他省エネ・高付加価値の産業プロセス装置など、ウシオ独自の強みが光る製品群に積極的に環境対応が取り込まれる事になりました。グループ会社製品での認定も昨年より大幅に増え、今後も積極的な展開が見込まれています。

## 品質保証センターの発足

2013年4月より、従来事業所毎に設置されていた品質保証部門を統合し、品質保証センターを発足しました。これによってウシオは、各事業所に展開されていた品質維持ノウハウの“良い所取り”を促し、さらなる魅力的品質と効率化の両立を計っていきます。これは、近年ウシオ製品に次々とラインナップされる医療機器に求められる非常に高い品質に応えるもので、これまでの工業製品向けで培ったノウハウを活用しISO13485(医療機器の品質保証のための国際標準規格であり、品質マネジメントシステムであるISO9001から内容が変更され、医療機器固有の要求事項も付け加えられている)を意識した活動を強化することで、今後は海外生産関連会社などとの連携を深め、グループで統一する品質保証体勢づくりに取り組んでいきます。

## CSR調達の推進

CSR行動計画と歩調を合わせ、2013年3月期よりお取引先様へのCSR取り組み調査を実施しています。この調査を通じてウシオの考えをご理解いただく機会を増やすことで、さまざまな側面で相互理解のきっかけを生む良い循環も生まれつつあり、多くのお取引先様でCSRへの理解と取り組みの向上が見られました。

## グリーン調達、国際環境法規制対応の推進

多様化する海外の法規制に対し、安定的で円滑な製品供給を実現するため、タイムリーな情報収集と対応を重視したバリューチェーン\*構築に取り組んでいます。調達方針、グリーン調達基準、RoHS、REACH規制対応協力など、お取引先様との相互理解を深めるための説明会も実施し、納期・品質に関わるトラブル回避などのお取引先様との対話を重視した取り組みを継続的に実施し、トータルな顧客満足度向上を目指しています。

## 紛争鉱物\*調査

米国証券取引委員会(SEC)による金融規制改革法の紛争鉱物条項に基づき、2012年8月、米国の証券取引所に上場している製造業者等に、コンゴ民主共和国および近接諸国で産出された紛争鉱物(タンタル、スズ、金、タングステン)の製品への使用に関する開示と報告を義務付ける最終規則が採択され、2013年1月から法が施行されました。ウシオ電機は、電極部材に多くのタングステンを使用するため、お取引先様への材料使用状況の調査を強化するとともに、EICC/GeSIテンプレート\*を使用した調査も開始しています。

## BCP\*への取組みについて

私たちは、2011年の東日本大震災によって、たった一つの部品の供給不能がもたらす、産業全体への影響についてたいへん大きな教訓を得ました。ウシオ電機の各種産業用光源もまた、非常に高い市場シェアを有するものが多く、お客さまに対する製品の安定供給に大きな責任があるため、BCPの積極的な推進を行なっています。

2012年4月より全社での専門委員会を立上げ、地震発生時の減災及び復旧の迅速化や被災時に他事業所が横断的にカバーするバックアップの仕組みなどの構築の取り組みを始め、総合的な計画の策定を進めています。情報セキュリティの一例では業務システムの対災害・対障害能力、ネットワークインフラ、社内データ資産管理の強化などを前進させており、トータルでの安定性確保に取り組んでいます。

**環境ファクター** 新しく開発した製品と、過去の製品の「環境効率」を比較し、改善度を数値化したもの。数値が大きいほど改善度が高いことを表す。『対象製品の環境効率』/『基準年度の同種製品の環境効率』で算出。ウシオ電機の環境効率は『製品の価値(性能)』/『環境負荷量』で計算。製品の価値は(出力×寿命)で算出し、環境負荷量は√[(入力)<sup>2</sup>+ (3R量)<sup>2</sup>+ (化学物質含有量)<sup>2</sup>]で計算。

\*1 出力:ランプであれば必要波長領域における光出力、照度など \*2 入力:製品使用時におけるエネルギー使用量 \*3 3R量:製品の大きさ・重量(使用している資源の量)

\*4 化学物質含有量:環境リスク物質の含有量

**バリューチェーン** アメリカの学者マイケル・ポーター氏が著書「競争優位の戦略」の中で用いた用語。購買物流、製造、出荷、販売・マーケティング、サービスとそれらを支援する人事・労務管理や技術開発など、それぞれのプロセスで作成した付加価値の連鎖が最終的な製品やサービスの価値を生み出すという考え方。

**EICC/GeSIテンプレート** EICC®(Electronics Industry Citizenship Coalition®、電子業界CSRアライアンス)およびGeSI(Global e-Sustainability Initiative)の取り組みにより、紛争鉱物関連の調達情報を収集するため、世界共通のものとして提供されている。

## 社会的課題を解決する製品

### 医療

(治療・診断・検査・衛生)

クオリティ・オブ・ライフ(QOL: 充実した質の高い生活)の観点から注目されている光医療。ウシオは、最先端の光技術を活かした、新しい治療・診断・検査・衛生機器で貢献しています。



紫外線皮膚治療器  
セラビーム®UV308



ポイントリーダー®および  
ポイントストリップ®外観

### エネルギー

太陽電池をはじめとする、新エネルギー技術開発に欠かせない光。ウシオは、低炭素社会を実現するインフラ整備や開発に取り組んでいます。



太陽電池評価用  
ソーラシミュレータ



加速試験装置

### 農業

(育成・植生)

私たちの食を支え、安心・安全・安定供給が求められる農業。人工光による育成環境の再現・最適化は、地球規模の食料問題解決に向けた取り組みのひとつです。



植物育成用照明  
システム



植物育成・制御用  
光源ユニット

### セキュリティ

(薬物・監視・情報セキュリティ)

不正薬物や農薬の検出、夜間警備・保守・監視用照明などでもウシオの光が活躍しています。



薬物検出システム用  
バイオチップ



税関の分析機関で評価中のウシオの  
オンサイト微量分析キット

### 自然環境

(水・大気)

河川や地下水、上下水道などの水質改善、排気ガスや煤煙による大気汚染の防止など、自然環境の保全に向けた光製品の開発に取り組んでいます。



無水銀紫外線殺菌ランプ  
ユニット



Min-Excimer

### バラスト水殺菌処理で活躍するウシオの光

(USHIO EUROPE B.V.)

海洋における生態系への影響として、バラスト水の問題があります。この問題を解決するためには水を殺菌処理する必要があり、そのひとつが光による方法です。この手法は薬品汚染もなく、コンパクトで取り扱いが簡単であるというメリットがあり注目されています。光を使った水処理は、水が関連するどの分野においても重要な技術です。ウシオヨーロッパでは現在バラスト水向けにUVランプ・電源をはじめ、必要に応じてコントロール部分の供給もしていますが、今後は工業用排水の処理などさまざまな用途にも展開し、環境問題を解決する光として市場に提供していきます。



## 環境への取り組み

ウシオグループでは、サステナブルな地球環境の実現に向けて、2020年にあるべき姿を描き本業を通じた取り組みの強化を行なっています。



CSR担当取締役 多木 正

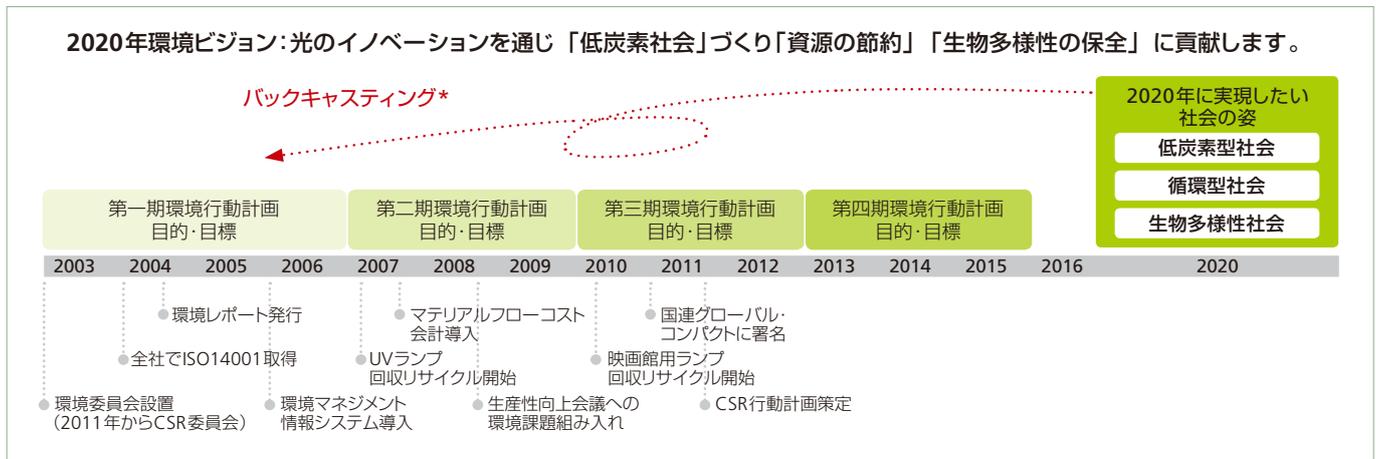
### CSR担当取締役メッセージ

2003年にグループ環境経営活動を開始してから10年、グループ全体の環境活動の浸透、全社環境重要課題の設定とパフォーマンス評価を推進してまいりました。現在、ウシオでは、「環境は品質の一部である」との認識から、積極的に製品による環境貢献に取り組んでいます。今後も、当社中期ビジョンを推し進める駆動力のひとつとして引き続き環境経営活動を推進してゆきたいと考えています。

### 2020年環境ビジョン

ウシオグループでは、2020年に「低炭素型社会\*」「循環型社会\*」「生物多様性社会\*」の3つを実現するために、事業を通じて社会に貢献できる企業になりたいとの想いで「2020年環境ビジョン」を策定しています。2013年4月からは、第四期環境行動計画がスタートしています。2010年よりスタートした2020年環境ビジョンへも新しい行動展開を迎えて折り返し地点が見えてきました。

### ウシオの環境活動の歩み



#### 用語集

**低炭素型社会** 地球温暖化を防止するため、CO<sub>2</sub>の排出量を少なくできる社会のこと。

**循環型社会** 限りある資源を大切に活用し、再利用を推進するなど持続可能な形で循環を進める社会。

**生物多様性社会** 遺伝子・生物種・生態系の3つの多様性が守られ多様な生物が存在している社会。

**バックカスティング** 将来にあるべき姿から、現在を振り返り目標を定める手法。

### 第三期環境行動計画の振り返り

全般的に期待値に近い活動が進みつつも、生産量の増減による変動を考慮しなかったことなどがあり、CO<sub>2</sub>排出量の削減達成には至りませんでした。一方で製品としての環境対応の土台は順調

に進み、自社独自の定量的な基準により環境配慮型製品、スーパーグリーン製品の積極的な推進を行ないました。各環境テーマの取り組み結果は下記の通りです。

[Web](http://www.ushio.co.jp/jp/csr/eco/manage/plan.html) <http://www.ushio.co.jp/jp/csr/eco/manage/plan.html>

環境テーマ		評価	
環境経営	環境ガバナンスの強化	グループ内すべての生産拠点において、第三期環境行動計画に沿った3か年計画を作成し実行した	○
	カーボンマネジメント*	ウェブやサステナビリティレポートにて、ガイドラインに沿ったCO <sub>2</sub> 排出量を公開	○
環境に配慮した製品性能向上	環境配慮型製品の拡大	累計で15件の環境配慮型製品(スーパーグリーン製品)の認定	○
環境に配慮した事業活動(環境生産性の向上)	地球温暖化対策の強化	CO <sub>2</sub> 排出量削減に向けて、グループの連携を強化した取り組みを行なったが、CO <sub>2</sub> 排出量が絶対値で基準値比5%増となった。物流CO <sub>2</sub> の削減活動を実施	×
	資源の節約	グループでのゼロエミッション*は99.8%とほぼ達成。水資源の有効活用においては、用水の循環利用推進により、基準値比45%削減	○
	化学物質管理	アジア地区の生産拠点との化学物質管理の連携強化を実施。クロロホルムの管理改善方法などをグループ内全体で共有し、有害化学物質の削減についてVOC上位5物質で20%削減	○
環境社会貢献活動	生物多様性の保全	生物多様性評価の実施	○

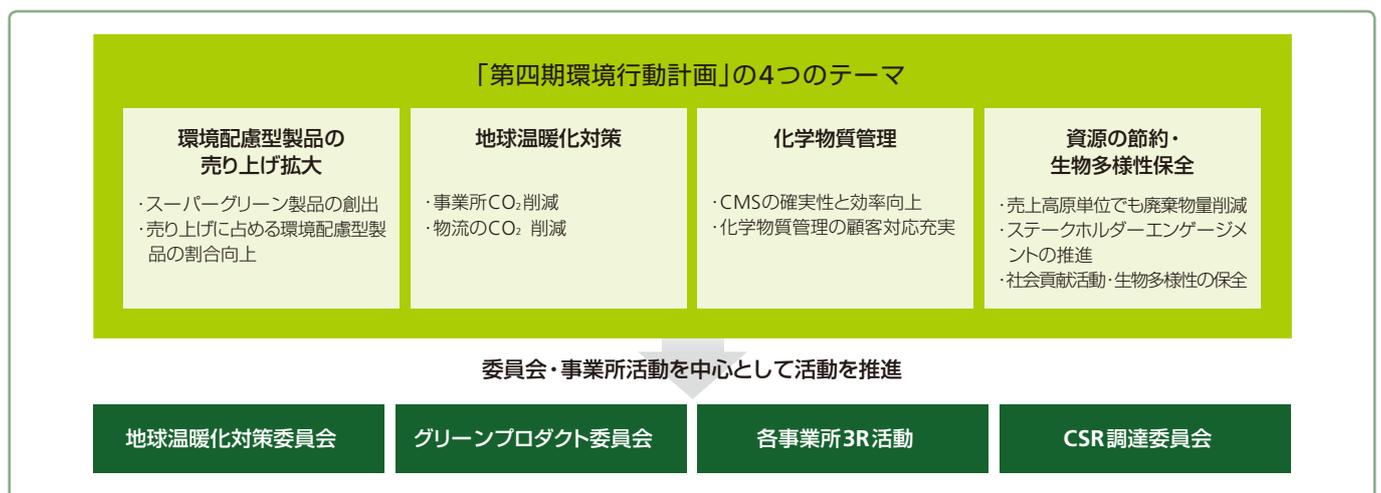
### 第四期環境行動計画

東日本大震災後の電力供給実態を踏まえ、電力不足を前提とした生産効率性を重要なテーマとしました。ウシオグループ全ての事業拠点において積上げ式での目標設定による低炭素型社会への貢献を掲げ、事業所でのCO<sub>2</sub>削減と電気製品としての貢献、およびそれら周辺のマテリアルデータベースやスーパーグリーン製品の展開を重視していきます。

LED使用など第三期において着実な成果のあった環境配慮型製

品イノベーションの展開を、実際の売り上げ増加に結び付ける活動を強化します。水銀条約や欧州の新しいRoHS2対応などの化学物質管理は、国際基準への準拠と定着をめざします。グループ会社との連携においても定量評価制度や体制など具体的な取り組みが進み、各サイトの特色が出てきました。グループ連携強化などを通じ、第四期行動計画では一層のレベルアップを図ります。

なお、CO<sub>2</sub>の削減計画については、売上原単位に基づく目標に変更しました。



#### 用語集

- カーボンマネジメント** 地球温暖化対策としてCO<sub>2</sub>など温室効果ガスの排出量の管理
- ゼロエミッション** 生産や廃棄、消費に伴って発生する廃棄物をゼロにする事を目標とする活動
- ステークホルダーエンゲージメント** 企業活動の中でステークホルダーの意見を理解し、議論を進める取り組み

## 第三期環境行動計画ハイライト

(2011→2013年3月期)



## 2013年3月期の表彰等

### 「千代田区温暖化配慮行動計画書制度」環境配慮賞(ウシオ電機)

2月、ウシオ電機本社の地球温暖化対策の取り組みが評価され、千代田区より『環境配慮賞』を受賞しました。この賞は、環境に配慮し行動する“人づくり”の促進として建物や設備といったハード面だけでなく、ソフト面の対策で優良な取り組みをしている事業者を表彰するものです。



本社環境推進委員会リーダーの大森さん(左)と石川 雅己千代田区長(中)と氏家CSR部長(右)

### エネルギー管理優良事業者最優秀賞(御殿場事業所)

御殿場事業所では、このほど関東地区電気使用合理化委員会からエネルギー管理優良事業者最優秀賞を受賞しました。今回の受賞は、自社開発の電力監視システムを活用し、大幅な電力削減を実現したことによるもので、特に2011年度の震災直後は、事業所内管理棟エリアの封鎖、ライフテストや生産の移転などの施策でピーク電力を削減したことが決め手となりました。

### グリーン企業賞(CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS CANADA INC.)

カナダの子会社クリスティカナダでは、通算3回目になるグリーン企業賞(2013 Canada's Greenest Employers)を受賞しました。環境に配慮して行なった事業所の改装がLEED\* ゴールドコンプライアンスリノベーションとして高評価を受けるなど、積極的な環境負荷低減に向けた改善活動が評価されました。

## TAIWAN USHIO LIGHTING, INC.の取り組み

### ウレタン緩衝材の廃止



エアークラフト設備

TULIでは、これまで出荷梱包用緩衝材に使用してきたウレタン屑からエアークラフトに変更することにしました。エアークラフトに使用される樹脂袋は生分解性樹脂ででき、微生物により分解し、最後は水と二酸化炭素になる自然にやさしい材料です。

### 廃棄石英を、電気炉用耐熱レンガにリサイクル



石英ガラスから生まれ変わった 電気炉用レンガ

また、今まで埋め立てゴミとなっていた石英ガラスも電気炉用レンガという新たな製品の素材として活用できるようになり、同時に埋め立て処理コスト削減にも貢献しています。

### ウシオ電機 播磨事業所にガス発電機を導入



播磨事業所に、環境負荷が小さく稼働時の騒音も小さいガス発電機を導入しました。これに、近隣の住民の方への配慮として高さ10mの防音壁を設けることで、きわめて騒音防止効果の高い設備となりました。この発電機は、夏のピーク電力を抑えるため緊急電力の供給を担うほか停電時の補助に用いられ、計画停電時でも容易に止められない設備が稼働できます。

### 社用車をハイブリット車へ切り替え(ウシオライティング)

ウシオライティングでは、社用車をハイブリット車へ切り替える取り組みを進めています。すでに各事業所で切り替えが進んでおり、走行距離が多い営業車両12台全てがハイブリット車になることで、年間約42万t/CO<sub>2</sub>の削減になります。(12台の年間総走行距離実績304,315km。CO<sub>2</sub>排出量:ガソリン車70万t/CO<sub>2</sub>、ハイブリット車28万t/CO<sub>2</sub>)

LEED Leadership in Energy & Environmental Designの略。米国グリーンビルディング協会(USGBC)による環境に配慮した建物に対する第三者認証制度。

## 社会とのかかわり

国際社会の一員として、それぞれの地域社会の発展に貢献するような取り組みを行っています。ウシオグループの国内外での拡大で事例も多く増えており、持続可能性の大きな要素である教育、文化、被災地支援や地域交流と、掲載内容以外にもさまざまな活動に取り組んでいます。



### 公益財団法人 ウシオ財団

「ウシオ財団」は、1994年にウシオ電機創立30周年記念事業として設立され、人材育成、学術・文化の発展に寄与することを目的としています。主な事業は奨学金支給により、次代の世界を担う人材の育成に寄与し、諸外国との交流と相互理解を増進することです。

2013年3月期は、大学院生(留学生含む)37名、高等専門学校専攻科生15名に奨学金を支給しました。これまでに採用した奨学生数は426名を数え、今年も引き続き被災地の学校を優先的に募集しました。

### ウシオ電機

#### 東日本大震災支援

2014年3月で東日本大震災から丸3年となり、被災地では継続的な支援が必要となっています。ウシオ電機本社は、東京都千代田区で行われた第2回「東日本大震災 東北支援地産マルシェ」を同じビルの他社と共同主催し、今年は昨年比で売上げ1.5倍、来場者数約2倍となりました。

#### 親子工場見学を実施

8月、御殿場事業所にて、市内の小学生と保護者43名が参加する親子工場見学が行われました。御殿場市では毎年夏休みに親子工場見学を開催しており、今年はウシオ電機が地域社会とのコミュニケーションの一環として実施しました。工場見学、TV会議システムの体験、社員食堂で社員と一緒に食事を体験してもらいました。



TV会議システムに近寄って楽しむ子ども達

#### 学生の工場見学

御殿場事業所では、近隣の学校から「授業の一環として、近くにあるウシオ電機の工場がどのようなものをつくっているのか。また、どのようにしてもづくりをしているのか見学させてほしい」との申し入れがあったことをきっかけに、学生の工場見学を実施しています。今ではほぼ毎年、沼津工業高等専門学校と御殿場高校より工場見学を受け入れており、当社の事業内容や製品を紹介できるよい機会となっています。

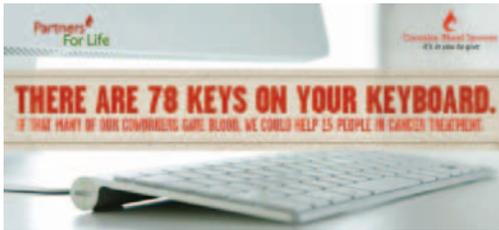
### 用語集

**ユナイテッドウェイ** 様々な地域コミュニティで起る根本問題を追及し対処するボランティア主導の非営利組織で、資源管理および短期・長期の結果に責任をもっている。ユナイテッドウェイのグローバルネットワークは、世界、地域、各国、および地方レベルの能力の結集とそれらの相互協力によって卓抜した力を発揮し、あらゆる地域で増加している「地域社会におよぼす影響」についての基盤を提供している。

## CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS CANADA INC.

### 命のギフト「献血」

クリスティカナダは、2012年の2月より社員からの献血提供推進キャンペーンを行っています。カナダ事業所では全社員に対して献血に関する講演や講習を実施し、2012年末までに71人が献血しました。2013年は、地元企業で行われている「ワートルロー・リージョン・ハイテク企業献血レース」に参加し、7月現在すでに年間目標の75人が献血しました。



カナダ血液サービスからの呼びかけ「キーボードのキーは78個。あなたの会社内で78人の同僚が献血したら、15人のガン患者を救えます」

### 恒例のユナイテッド・ウェイ\* キャンペーン開催



10月1日から5日間、ユナイテッド・ウェイを通して、地域社会を支援する特別イベントを開催しました。クリスティの強みである創造性ならびにエンジニアリングを武器に、フットボールを投げる機械を設計する競争です。今年クリスティは約90,000カナダドル(約733万円)を集め、地域の生活の質の向上に役立つユナイテッド・ウェイの強力なサポーターとなっています。

## CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS USA, INC.

### 米国赤十字社へプロジェクターを寄贈



クリスティアメリカでは、米国赤十字社からの支援要請に応え、米国政府直轄の緊急防災センターへのデジタルプロジェクター4台を寄贈しました。災害や緊急事態の被害の拡大から地域を護り、被害を最小限に抑えるためにリアルタイムの情報を表示することができるLWU420 3LCDは、南カリフォルニア(オレンジ郡、リバーサイド郡およびサンバーナーディーノ郡)の緊急防災センターにおいて、人々を守るといった大きな使命を担っています。

**ウシオエンジェル** 2005年、同僚をガンで亡くしたことをきっかけに、ウシオアメリカ・オレゴン工場の社員に芽生えたチャリティー精神とその活動を知る人々が彼らにつけたニックネーム。現在、「リレーフォーライフ」にウシオアメリカの社員が参加する際のチーム名になっている。

### 飢えと戦う子ども達のために

クリスティアメリカでは、人道的食糧支援団体「Kids Against Hunger」に対し、人手と資金を提供しています。「Kids Against Hunger」は、世界中のおなかをすかせた子供たちへの援助を目的に、発足以来60以上の国の子供たちとその家族に200百万食を超える食糧を提供しており、すべての活動は数十万人にもおよぶボランティアによって支えられています。クリスティアメリカでも11,664食の食糧をパッキングし、これらの食料はアフリカの子供たちやカリフォルニア州オレンジ郡に住む飢えに苦しむ人たちに配られます。



## USHIO AMERICA INC.

### 米国ガン協会への支援「ウシオエンジェル\*」



6月22~23日に開催された米国ガン協会の行事「リレー・フォー・ライフ\*」に参加しました。この一年間で集められた寄付金は、過去最高の\$86,464(約685万円)になりました。



また11月には、米国ガン協会への寄付金集めの一環行事として「Cup Cake War」を実施しました。参加者はたくさんのカップケーキを作り、社員に販売することで米国ガン協会へ寄付金を集めました。

オレゴン事業所では、今後もウシオエンジェルのメンバーがリーダーシップをとり、楽しいイベントを通して米国ガン協会への寄付金を集めていきたいと考えています。

**リレーフォーライフ** アメリカのガン協会が毎年全国(市・町単位)で開催する行事で、地域の学校の校庭や公園の小道などをチームメンバーが交代で24時間歩き続けるイベント。24時間休みなしで体をむしばむガンへの挑戦、そしてそのガンと24時間休みなしで闘っている人への応援の意味が込められている。

# 事業概況

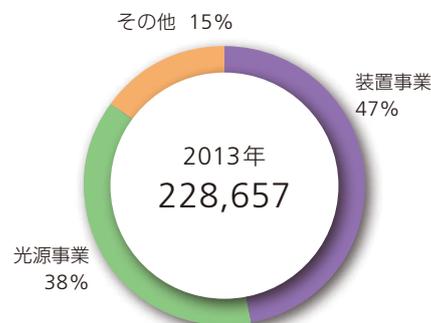
売上高構成比  
(百万円)



営業利益構成比  
(百万円)



資産構成比  
(百万円)



## 装置事業



### 映像装置

- ・シネマ用デジタルプロジェクタ(DCP)
- ・一般映像用デジタルプロジェクタおよびシステム(コントロールルーム、シミュレータ、デジタルサイネージ、バーチャルリアリティ)など

### 光学装置

- ・半導体、FPD、電子部品製造用各種光学装置(露光装置、光洗浄ユニット、光硬化装置など)
- ・紫外線皮膚治療器、血液分析装置など医療機器
- ・検査・開発用EUV光源

## 光源事業



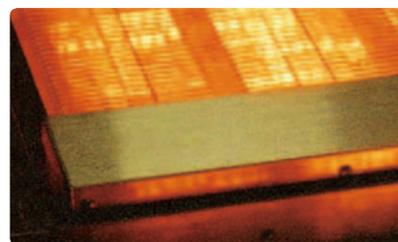
### 放電ランプ

- ・半導体、FPD、電子部品製造装置用UVランプ
- ・シネマプロジェクタ用、データプロジェクタ用、OA機器用、照明用など各種ランプおよび産業用LED

### ハロゲンランプ

- ・OA機器用
- ・照明用(商業施設、舞台・スタジオ、特殊照明など)
- ・ハロゲンヒータ

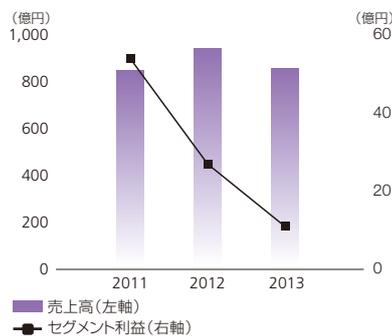
## その他



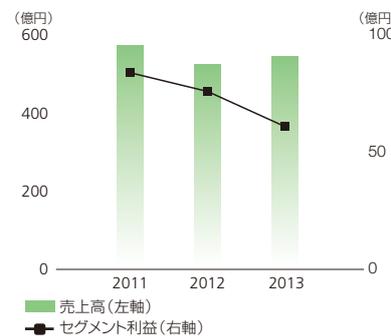
### 産業機械・その他

- ・プラスチック成形用途、周辺機械
- ・ファクトリーオートメーション
- ・その他

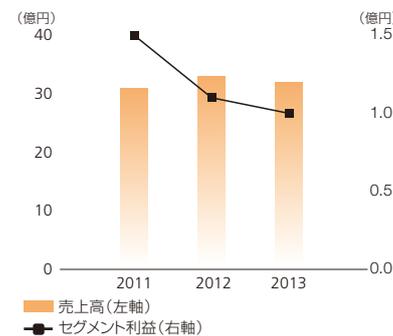
売上高/セグメント利益



売上高/セグメント利益



売上高/セグメント利益



## 会社概要

設立 1964年3月  
 資本金 19,556,326,316円  
 代表取締役社長 菅田 史朗  
 本社 東京都千代田区大手町2-6-1

従業員数 (2013年3月31日現在)  
 ウシオ電機本体 1,793名  
 国内グループ計 574名  
 海外グループ計 3,249名  
 合計 5,616名

## 第三者意見

ここ数年のウシオ電機のサステナビリティレポートは、同社がCSRあるいはサステナビリティの発想を企業経営に組み込み、そこから新たなソーシャル・ビジネスやイノベーションを生み出すことで競争力を高めていこうとするメッセージが伝わってくるものとなっている。

とくに今年度のメディカル・サイエンス事業にかかる特集(p4~7)は、同社の光技術と画像分析技術という固有の経営資源を活用して開発された血液分析装置についてであり、これは同社が近年注力している事業領域である。同装置の開発により、従来は高額なため特定の施設でしか行えなかった血清フェリチンの定量分析が、国内外の診療所や病院でも簡便かつ迅速に行えるようになった意義は大きい。同社においてこれらのメディカル事業の規模はまだ小さいが、国内の医療機関のみならず途上国のNPO/NGOと連携することで、現地の医療水準やQOLの向上にも貢献できるソーシャル・ビジネスとしての期待値は大きいといえよう。

また、経営トップがCSR行動計画にコミットすることにより、各部署から人材育成や環境対応、顧客対応、ダイバーシティ等に対する施策や経営課題があげられており、国内レベルの現場で具体的に取り組むべき課題が整理されつつある。P11に示されているCSR行動計画における「社会(社会貢献活動)」面では、財団の有効活用ならびに本業を通じた貢献活動など、もう一歩踏み込んだ取り組みが必要であるものの、「ガバナンス・コンプライアンスでは情報セキュリティの強化、「人」では女性支援やワークライフバランスの推進、「品質」ではCSR調達の推進や紛争鉱物調査の実行等がそれぞれ少しずつ進展しており、担当部署との対話を通してCSRが具体的なレベルに落とし込まれつつあることが窺える。

一方で、ウシオ電機の売り上げは海外(アジア・北米など)が7割を占め、また生産拠点もフィリピンや中国といったアジア圏が重要な拠点となっていることを考えれば、今後はよりグローバルな視点がCSRの取り組みと報告の両面に求められる。例えば上記アジア諸国におけるサプライチェーンでの労働・人権問題等への取り

組みは、今後グローバル企業として喫緊の課題となっていくものである。同社ではグローバル化に対応してISO26000の活用やCSR担当者レベルにおける人権教育に関する研究会への参加等を実践されているが、原材料の調達から始まり、輸送、生産、流通、販売といった各フェーズにおいて、どのような課題があり、どんなステイクホルダーとの関係があるのか、あらためて見直すことも必要である。積極的なステイクホルダーとの関係構築やそこでの課題認識は、ウシオにとって価値の源泉となり、競争優位をもたらすことになる。その意味では、今一度ウシオのグローバルレベルにおける「ステイクホルダー・ランドスケープ(ステイクホルダーとの関係構築のあり方を示した地図)を描き、彼らとの「本格的な対話」を試みることも価値ある作業となろう。そこでは、どのステイクホルダー(現地従業員、サプライヤー、NPO/NGO、専門家等)を選び、彼らから(表面的でない)どんな厳しい意見や課題を抽出できるかが問われている。同社にとっては、これらは既に実施済みの部分もあるが、改めて国内のみならず国外にも目を向け、課題を抽出・整理した上で、PDCAサイクルの確立を図ることで、持続可能な責任ある競争力が構築されることを期待している。



高崎経済大学  
地域政策学部 准教授

### 土肥 将敦

一橋大学経済学部、一橋大学大学院商学研究科博士後期課程を経て、2009年より現職。商学博士。著書に『CSR経営—企業の社会的責任とステイクホルダー』(共著、中央経済社)、『ソーシャル・エンタープライズ—社会的企業の台頭』(共著、中央経済社)、『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』(共著、NTT出版)などがある。

### 第三者意見を受けて

この度、高崎経済大学准教授土肥将敦先生から、「サステナビリティレポート2013」に対し、貴重なご意見をいただきましたことに感謝申し上げます。

土肥先生には、2010年版のレポートから連続して第三者意見を頂戴し、弊社のCSRの取り組み、進捗に対するご意見、評価をいただいております。我々はそのご指摘を一つの指針として、活動の改善、推進を行なってまいりました。

弊社は、2014年3月に創業50周年を迎えます。これからも光の

ウシオ電機株式会社 取締役 CSR担当 多木 正

多様な力によるソリューションを地球社会に提供する企業として、ワールドワイドでステイクホルダーとの健全な関係を維持、改善してゆくことは必要不可欠なものと認識しています。

新たなソーシャル・ビジネスの創出、地道なCSR活動の推進、グローバルな視点でのステイクホルダーとの関係構築等を通じ、今後の弊社の経営活動に結び付いた価値ある活動にしてゆきたいと考えています。

#### 本冊子の環境配慮について

この「サステナビリティレポート 2013」は、環境に配慮したFSC®認証紙、VOC（揮発性有機化合物）削減効果の高い「水なし印刷」を使ってつくりました。またCTP方式を採用し、製版工程における中間材料を削減しています。



本冊子に関するお問い合わせは下記までご連絡ください。

**発行：ウシオ電機株式会社 CSR部**

〒100-8150 東京都千代田区大手町 2-6-1

Tel: 03-3242-1892 Fax: 03-3245-0695

[www.ushio.co.jp](http://www.ushio.co.jp)